

農福連携等マッチング支援事業全体会議

# 成果報告資料（JA湘南管轄地域）

令和8（2026）年3月26日（木）

特定非営利活動法人 湘南NPOサポートセンター

理事長

坂田 美保子

プロジェクトマネージャー

関谷 育雄

## ○お試しノウフク実施件数 8件

月日	農家名	施設名
5/14	<input type="checkbox"/> 関谷	「レインツリー伊勢原」
6/6	<input type="checkbox"/> 大森	「レインツリー伊勢原」
6/11	<input type="checkbox"/> 笹尾	「レインツリー伊勢原」
10/3	<input type="checkbox"/> 田中	「キルクももはま」
12/24	<input type="checkbox"/> 平田	「グランス平塚」
1/13	<input type="checkbox"/> 関谷和彦	「キルクももはま」※農地賃借
1/28	<input type="checkbox"/> 風間達也	「レインツリー伊勢原」
2/2	<input type="checkbox"/> 風間達也	「Gサポート湘南」

## ○マッチング件数 6件

月日	農家名	施設名
5/28	<input type="checkbox"/> 関谷	「レインツリー伊勢原」
6/6	<input type="checkbox"/> 大森	「レインツリー伊勢原」
10/10	<input type="checkbox"/> 田中	「キルクももはま」
1/13	<input type="checkbox"/> 関谷和彦	「キルクももはま」※農地賃借
2/12	<input type="checkbox"/> 風間達也	「レインツリー伊勢原」
2/?	<input type="checkbox"/> 風間達也	「Gサポート湘南」

## 2 お試しノウフク実施記録①

- ①期日 5月14日(水)  
事業所 「レインツリー伊勢原」  
農家 「関谷農園」  
参加者 利用者 4名 事業所スタッフ1名  
作業内容 ドライフラワー用植物の栽培準備



## 2 お試しノウフク実施記録②

②期日 6月6日(金)

事業所 「レインツリー伊勢原」

農家 「大森農園」

参加者 利用者 6名 事業所スタッフ2名

作業内容 玉ねぎカット、袋詰め



## 2 お試しノウフク実施記録③

③期日 6月11日(水)

事業所 「レインツリー伊勢原」

農家 「笹尾農園」

参加者 利用者 6名 事業所スタッフ2名

作業内容 ニンジンのヒゲ取り・袋詰め



※計量ミスやニンジンの傷付け、作業量に対しての工賃の折り合いがつかず、マッチングには至らなかった。

## 2 お試しノウフク実施記録④

- ④期日 10月 3日 (金)  
事業所 「キルクももはま」  
農家 「田中農園」  
参加者 利用者2名 事業所スタッフ1名  
作業内容 キュウリの摘心



## 2 お試しノウフク実施記録④

- ④期日 12月24日(水)  
事業所 「グランス平塚」  
農家 「平田農園」  
参加者 JA職員1名 事業所スタッフ1名  
作業内容 イチゴの調整作業



## 2 お試しノウフク実施記録④

④期日 2026年1月13日(火)

事業所 「キルクももはま」

農家 「関谷和彦農家」

参加者 利用者1名 事業所スタッフ1名

作業内容 農地賃借による野菜栽培

※野菜の直売や利用者さんの野菜の調整作業のリハーサル場として活用予定。



## 2 お試しノウフク実施記録④

- ④期日 2026年1月28日(水)  
事業所 「レインツリー伊勢原」  
農家 「風間農園」  
参加者 利用者8名 事業所スタッフ3名  
作業内容 サトイモの調整作業



## 2 お試しノウフク実施記録④

④期日 2026年2月26日(木)

事業所 「Gサポート湘南」

農家 「風間農園」

参加者 利用者 2名 事業所スタッフ1名

作業内容 サトイモの収穫作業



日数及び人数、のべ人数

・「レインツリー伊勢原」と「大森農家」※施設内

**作業内容**

タマネギカット  
タマネギ袋詰め  
エダマメ鞘取り  
サツマイモの土落とし  
長ネギの皮むき  
サトイモの根取り

6月	11日	×6名	=	66名
8月	5日	×6名	=	30名
9月	16日	×6名	=	96名
10月	7日	×6名	=	42名
11月	7日	×6名	=	42名
12月	6日	×6名	=	36名
1月	2日	×6名	=	12名
2月	2日	×6名	=	12名

・「レインツリー伊勢原」と「関谷農園」※施設外

**作業内容**

ドライフラワー用植物の栽培に向けての  
耕作いろいろ

6月	4日	×4名	=	16名
7月	4日	×4名	=	16名
8月	4日	×4名	=	16名
9月	4日	×4名	=	16名
10月	4日	×4名	=	16名
11月	4日	×4名	=	16名
12月	2日	×4名	=	8名
1月	2日	×4名	=	8名
2月	2日	×4名	=	8名

合計 220名

日数及び人数、のべ人数

- ・「キルクももはま」と「田中農家」※施設外

**作業内容**

コマツナの播種、肥料撒き  
キュウリの摘心

11月	8日×3名 = 24名
12月	8日×3名 = 24名
1月	4日×2名 = 8名
2月	4日×2名 = 8名

- ・「レインツリー伊勢原」と「風間農園」※施設外

**作業内容**

サトイモのけば取り、サイズの仕分け

2月	12日×6名 = 72名
----	--------------

日数及び人数、のべ人数

- ・「キルクももはま」と「関谷和彦農園」※施設外

作業内容  
野菜の栽培

2月 4日×1名=4名

- ・「Gサポート湘南」と「風間農園」※施設内

作業内容  
サトイモを弁当食材として提供

2月 1日×12名=12名

お出汁香る、至福のひとつき  
こっくり旨い、里芋の醤油煮

豚バラ肉と里芋の  
醤油煮弁当



キッチン  
さいかん

合計608名

## 4 今後の予定

### お試しノウフク⇒マッチング成立へ

#### □平田農家(平塚)と「グランズ平塚」

作業内容 イチゴ栽培の手伝他

#### □平塚市内農家(平塚)と「グランズ平塚」

作業内容

平塚市龍城ヶ丘プール跡地開発「ひらつかシーテラス」へグランズ平塚が出店するにあたっての農産物提供の連携

#### □田中農家と「グランズ平塚」

作業内容

キュウリの収穫、調整作業

#### □川口農家(平塚)と「市内福祉事業所」

作業内容

除草作業

## 5 その他（啓蒙活動）

・農業新聞で、大森農家の農福連携の取組みが紹介されました。（8/2）

・JA中央研究会にて県共生推進本部室職員と共に農福連携について講演(8/20)

・JA湘南地域TAC職員に向けて農福連携について講演(9/11)

・お試しノウフク開催チラシを作成・配布（9月）

・農福連携ののぼり旗を追加作成し各農家・施設に設置

・平塚市の社会実験「平塚駅周辺地区将来構想」に基づいた道路空間の整備で、農福マルシェを開催（10/19）

・湘南NPOサポートセンターまつりでライオンズクラブも協力して、農福マルシェ実施（11/23）

・農福連携推進会議実施（リアル・オンラインハイブリッド形式）（12/26）

・神奈川セルプセンターの農福セミナーへのビデオ出演（1/16）

・農福連携推進会議実施（オンライン形式）（2/23）



キルクももはまの事例報告



今年の農作業

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
玉ねぎ	らっきょう	枝豆	きゅうり	空芯菜	くらげ	みかん	長ねぎ	スイート	プロコ		
				ブルーベリー	柿						
				さくらげ	さくらげ	大根				小松菜	
						里芋	ゆず				

### 令和7年度 神奈川県 農福連携セミナー

講演内容	講演者
農福連携の概要について	障害福祉課 社会参加推進グループ
6次産業化の概要、 支援制度等について	農政課 ブランド推進グループ職員
農福連携取組事例	キルクももはま 椎野 淳子



## 6 これまでの振り返り

- 関係者のネットワークが深まり、LINEグループ（農福連携推進会議）を立ち上げ、随時情報交換ができている。そのため、お試しノウフクの依頼や農福マルシェなどへの参入が実施し易くなった。
- JA湘南本部職員の働きかけで、TAC職員の意識が高まりつつあり、農家からの依頼が増えている。
- 農家、福祉事業所共に核となる人材ができ多方面で活躍されているので、農福連携の広まりに貢献できている。  
例 JAやタウンニュースなどの広報誌や農業新聞などで農福連携をアピール
- 農福連携ののぼり旗を追加作成し各農家・施設に設置したため、より多くの方々に関心を持ってもらえるようになってきた。ミニのぼり旗も作成中です！

- ▼当面マッチングも落ち着いてきて成果も出てきている。  
今後は新規農家の開拓を進めつつ、現行の福祉事業所の稼働日・時間増などお互いにメリットになるような方策を模索したい。
- ▼現在、農家さんの依頼に対応できる福祉事業所が限定されている。福祉事業所が抱えている課題が要因となっていることもあり、その現状を理解するとともに障がい福祉課との相談・協力体制をつくっていききたい。
- ▼関係各位（JA湘南、福祉事業所等、行政）と協力し、農福のメリットを活かすよう情報発信を強化し新規開拓を促進したい。
- ▼農福連携の推進に向けて、農家・福祉事業所の協力を得て直売・農福マルシェを進めている。  
農・福どちらにとってもメリットがあるため、波及効果を期待したい。
- ▼福祉事業所の利用者の入れ替わりが多いので、農作業の適性を見極めるのが課題となっている。